

【オセアニア・アジアの獣医科大学】

調査訪問大学名： マッシー大学獣医学部（ニュージーランド）
調査訪問時期： 平成 23 年 7 月 12 日～平成 23 年 7 月 15 日（4 日間）
調査訪問者氏名： 島田章則
訪問時の対応者名：

- 7.12 Janet Molyneux (Veterinary teaching hospital)
- 7.13 Tim Parkinson (Curriculum)
- 7.14 Frazer Allan (Head of the Institute: Building plans), Brain Korte
(Financial), Kevin Stafford (Postgraduate)
- 7.15 Chris Good (Library), Keith Thompson (Pathology)

【マッシー大学獣医学部の沿革】

マッシー大学は 1926 年に農業単科大学として北島のパーマストンノース市に設立された。その後、テクノロジー、社会科学、ビジネスなどの学部を加え、今や 36,000 人の学生を有する総合大学であり、北島のオークランド、ウェリントン、およびパーマストンノース市にキャンパスがある。中心キャンパスのパーマストンノースに獣医学部（Veterinary school in the Institute of Veterinary, Animal and Biomedical Sciences）がある。獣医学部は 1962 年に設置され、1998 年に獣医学部、畜産学部および科学部の一部が合体して Institute of Veterinary, Animal and Biomedical Sciences となった。米国獣医学協会 American Veterinary Medical Association(AVMA)による認証評価を 2002 年に取得しており、本学部を修了することで得られる獣医師の資格がアメリカ合衆国、オーストラリア、カナダ、イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国などの世界で通用することを誇りとしている。

【獣医学教育の特色】

設置基盤を活かしての大動物（牛、馬、羊）、小動物および野生動物についての実践的な臨床教育を実施し、ニュージーランドおよび国外の臨床分野で活躍する臨床獣医師を輩出する。また、ニュージーランドの主要産業が畜産業であることから、大動物臨床および食の安全・安心にも重点を置いた教育を目指しており、入学後早期からの畜産学講義・実習の履修および全天候型大動物教育施設整備による学生の家畜への親しみを増す機会を設けている。

【学部教育】

獣医学部は 5 年制であり、各年次は 2 学期に分かれている。1-2 学年で正常な動物の構造・機能や動物行動・動物福祉を習得する。入学時の最初の 1 学期（選別期）に入学定員 100 名の 2 倍以上の学生が在籍する。3 年次に病理学、寄生虫学、野生動物医学、魚病学、薬理学や毒性学を習得する。4 年次に臨床課程に進級し、伴侶動物や家畜の疾患の診断・治療および予防に関して習得する。最後の 5 年次には、18 週間におよぶ全動物（伴侶動物、家畜、馬、野生動物）を対象としたコア臨床実習、続いて 7-9 週間の希望する動物種ごとの選択実習、そして最後の 7-9 週間のニュージーランド国内および国外の現地

派遣臨床実習により臨床技術を習得する。

【教育施設】

近年の大動物臨床離れ（女子学生の増加に伴い、大都市でパートタイム就業を希望する獣医師が増えることによる現場の大動物臨床獣医師の不足傾向）への対策として、大動物臨床充実のための全天候型大動物教育施設を整備した。また、野生動物保護への国民・企業からの関心・寄付が大きいことから野生動物保護センターを大学周辺に設置し力を入れている。

【獣医学生】

定員 100 名であり、約 70-80 パーセントが女子学生である。また、学生のうち 24 パーセントが海外（主に北米）からの留学生である。これからの 3 年のうちに学生定員を 1.5 倍に増やす予定である（臨床現場からの要望および留学生からの授業料収入増による学部運営資金獲得）。

【調 査 結 果】

1) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

① 獣医科大学の規模（動物病院も含む）：

スタッフ： 教員数：107（男女比）50/50、外国人教員数：50%（英国、カナダ、オーストラリアなど）、（教授 19、准教授 6、助教 56、その他 26）

サポーティングスタッフ数：事務職員 24、技術職員 52

学部学生：昨年度志願者数 220、入学者数 99（男女比女子 70-80%、外国人留学生 24）、学部総数 580（男女比____、外国人留学生____）

大学院学生：昨年度志願者数 70、入学者数 50（男女比 50/50、外国人留学生 50%）院生総数 160（男女比 50/50、外国人留学生 50%）

施設： 建物の総面積（概算）：10,754 m²、実験動物飼育施設（面積、収容動物数の概算）研究施設（面積____、収容動物数____）、非密封 RI 用施設（面積）____、図書施設（収容人数____、冊数____）、講義室（数 3、各収容人数 150, 100, 100）実習室（数 4、各収容人数 100）、自習室（数 4、収容人数 20）、その他（1、目的と収容人数；画像フィルム自習 10）、教育支援コンピューター室（数 4、収容人数____）、大学キャンパス外の教育支援施設

大動物（家畜、馬）実習教育施設（large animal teaching unit）をキャンパス近くの農場（50 ヘクタール）に整備（写真）：家畜の飼養管理についての実習を実施。屋根がありいかなる天候でも計画どおりに実習ができる。そのほかに、教育目的で 2,000 ヘクタールの農場を有する。

教育研究運営資金の調達 2006 年：

国（州など）（金額もしくは比率）\$10,687,250NZD、授業料 \$5,621,550, , 競争的資金\$1,750,000, 企業からの受託研究 \$5,500,000、教育病院収入 \$2,000,000
留学生からの授業料（国内の学生の 6 倍：\$34,000USD）収入を増やすことを検討中（留学生の数の増加）

② 動物病院

動物病院の規模：

スタッフ：教員数____（小動物 12、馬 7、野生動物 7、産業動物__）レジデント数 20、サポータースタッフ数（事務職員 12、技術職員 20）、大動物診療室（数）3、小動物診療室（数）4、入院可能動物数（大動物 20、小動物 40、エキゾチックアニマル 10、鳥類 50、魚類など 0）、内科系処置室（数）4、外科手術室（数 4、手術台数 4）、集中治療室（数）1、救急獣医療施設 1、その他__

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置○、超音波画像診断装置○、X 線断層撮影装置○、X 線照射装置○、MRI○、内視鏡検査システム○、核医学システム○、屋外運動場/プール__、跛行検査場__

診療科の分野の有無：内科○、栄養科○、皮膚科○、脳神経科○、眼科○、歯科○、外科○、腫瘍科○、麻酔科○、病理科○、画像診断科○、鳥獣・爬虫類○

財務内容（年間）： 寄付金（金額）____、診療売上金（金額）\$2.7million USD

診療業務への学生参加：有無○（大学病院○、大学病院外○：例えば、シエルターや一般の動物病院での実習：いずれも○）

社会へのサービス体制：分院の有無○（目的：小動物臨床）

診療車の有無○（目的：大動物臨床）

2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 5 年）

・理系 GPA で最低 3.0 以上必要

・毎年 200 名以上が 1st Semester を受講するが、2nd Semester に進めるのは 100 名弱であり、そのうち 24 人は外国人である。

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 530~600、可能であれば時間数____

特例措置：（ダブルディグリー等、例えば DVM+Master of Veterinary Public Health など）_____

修士課程：（専攻、年数など Master of Veterinary Science (MVSc) 1~2 年

Master of Veterinary Studies (MVS)

Master of Veterinary Medicine …distant learning など)

博士課程：(専攻、年数など

Postgraduate Diploma in Veterinary Clinical Science など)

教育に用いる言語：英語

その他：日本と異なる特別な科目等_____

学生への支援体制：

授業料：(自国学生 \$ 6,610 (USD)、留学生 \$34,000 (USD))

授業料免除制度_____、宿舍の有無○

奨学金制度の有無○、\$ 420～\$ 8,300 (USD)

留学生のための支援部署の有無○

3) ① 昨年の就職状況：

職種：大動物小動物混合臨床 70、馬臨床 10、小動物臨床 20、公務員 0 (農林省管轄__、厚生省管轄__)、民間企業__ (製薬会社など)、大学教員__、その他__

- ② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無 ○ (ただし、少数：Master of Veterinary Science として大学院にて実施) (無の場合：大多数は獣医師会が実施する研修に参加)
卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無×、(利用料金の有無_____)

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？

- ① 国際的な獣医学教育の認証システムの有無○

- ② 平成 21 年 10 月に行われた OIE 主催による世界の獣医学部長会議の方針への対応○

World Bank による基金により、アフリカ、中東、アジア (南、中央、東) 諸国の獣医師の教育水準を高めるための E-learning を主体としたマスターコースレベルの教育機構 [One health Hub] を Massey Univ. を中心に 2012 年から実施することとなった。

- ③ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育○
- ・ 食の安全に関する教育○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理○
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保○
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保○
- ・ アニマルウェルフェアに関する取組み○

一年次の後半の 6 ヶ月間に Animal welfare の講義を受講、専門課程において Live stock management の講義を受講、卒業年次に臨床実習の一環として Society of prevention of cruelty of animals に学生を 2 週間派遣し、保護された伴侶動物の実態に触れる機会を提供。

- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み○
野生動物保護センターを教育病院内に開設した（野生動物保護局と共同で、および民間からの基金を元に）。学生および国民からの強い関心・要望があり、民間からの寄付が集まりやすい。そのため、傷病野生動物診断治療に特化した獣医師を育てるための体制・施設を整備強化し、さらに拡充する予定。
 - ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など）○
第2年次に実験動物の扱い方についての講義科目がある。また、3年次以降の家畜の飼養管理についての講義実習内で、家畜の扱い方に関する項目内で動物実験（家畜動物を対象とした）についての教育を行っている。
 - ・ その他_____
- ・ 教育充実のための重要なポリシー：実践教育のための動物症例数および教育材料（標本や検査材料）の確保を最重要視している。獣医学部が人口の少ないパーマストンノース市（人口7万人）に設置されているため、小動物の数が不十分である。そのため、国内（オークランドやウェリントンなどの大都市を含む）の動物診療所（大動物、小動物）と契約を結び（大学から動物診療所に経費を支払う）、学生を実習に派遣している（移動・宿泊に伴う費用の一部を補助）。また、検査材料確保のために、企業とともに有料検査機関（診断サービス）を学内に開設し、全国の動物診療所から検査材料を収集している。それらは、収入および教育に役立っている。

就職状況 卒業生 100 名

ほぼすべての学生が卒後 2-5 年間は国内・国外の臨床診療施設に勤務（伴侶動物と家畜の混合診療所 60-70%、伴侶動物 20%、馬 5-10%）、その後小動物、家畜、馬に特化した診療所に移動。女子学生は、結婚・出産を機に、伴侶診療所でのパートタイム職に移動することが多い。極まれに公務員（公衆衛生、家畜衛生）職を得る。公務員職に関しては、学生からの希望および政府からの求人の機会は共に少ない。食肉検査の職への募集が時折あるが、奨学金が付与されることにより学生が応募する。企業職は無い。卒後の臨床病院での勤務を経て、研究を志望するようになった者が大学院（研究）に進学することがある。

このように、学生は卒後にまず混合診療所で広く獣医師臨床経験を積み、その後、各自の専門分野（小動物、大動物、その他）を選択する。したがって、卒業年次の最終学年の最初の 6 ヶ月間に、動物の手術や麻酔などの基本についての実習を主体とした教育を等しく全ての学生に行う。その次の 3 ヶ月間に、小動物、大動物、野生動物に特化した実習を提供し、学生が選択を行う。さらに最後の 3 ヶ月間に、小動物集中治療、馬の診療、食肉検査を含めた家畜診療に特化したコース（学外派遣）を提供し、学生がそれぞれ選択している。研究（卒業論文）は課していない。

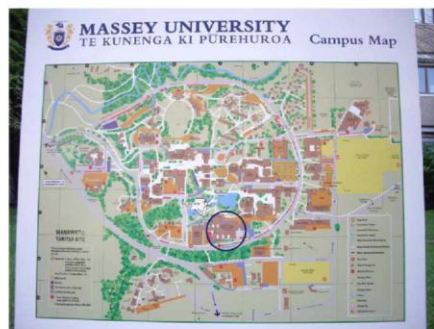
近年の傾向として、女子学生の割合の増加（比率 70-80%：背景として、入学の難易度や就学中の重度の勉強が要求されることへの就職後の収入や待遇が見合わないという認識が男子学生に増えつつある）および大動物診療に従事する学生の数の減少が見られるようになってきた。大動

物診療への従事者を増やすために、教育内容に占める大動物の診断・治療に関する割合（実習・講義）を増やす、教育課程の早期に大動物の飼育環境に触れる機会を増やすなどの工夫をしている。

【マッシー大学獣医学部 写真資料】



獣医学部が立地するパーマストンノース市の風景



教育病院および背後の獣医学部タワー



大動物教育用の農場



講義室



組織学実習室



病理組織学実習室



コンピューター自習室(文献検索)



解剖学実習室



教育病院 Teaching Hospital



待合室内



医局 担当医の詰所



小動物 ICU : Intensive Care Unit



画像診断室（小動物）



超音波検査（小動物）



小動物手術室



手術支援スタッフ詰所



大動物処置室



画像診断室（大動物）



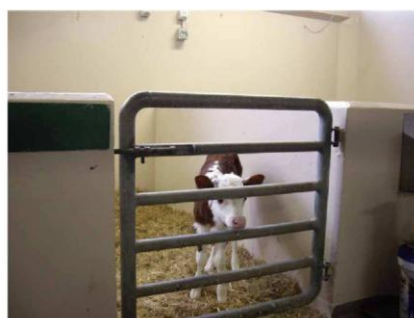
大動物用CT装置



大動物入院舎



小動物入院舎



大動物入院舎

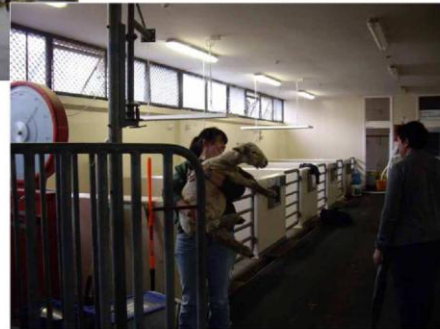


大動物入院舎





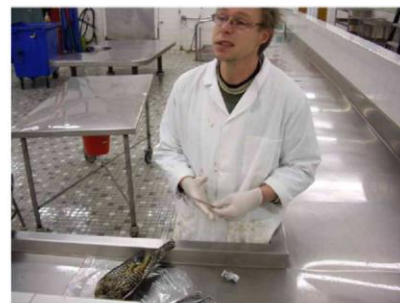
学外の大動物診療用自動車



大動物入院舎



病理解剖室



野生動物病理担当研修医



病理標本



病理標本作成室: 標本作成技官が勤務



病理診断ディスカッションルーム
教員、レジデント、学生が集合して顕微鏡
観察と意見交換



大動物実習施設(全天候型)
Large Animal Teaching Unit
キャンパス近くの農場内に整備





全天候型大動物実習施設:
学生が車で集合している



馬の診療サービス



馬の搬送車



野生動物保護施設
保護されたキウイを抱く野生生物専門医

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： シドニー大学獣医学部（オーストラリア）
調査訪問時期： 平成 23 年 8 月 14 日～平成 23 年 8 月 20 日（7 日間）
調査訪問者氏名： 今川 智敬、保坂善真
訪問時の対応者名：

Prof. R. Taylor (Dean of Faculty)
Prof. K. Johnson (Associate Dean of Veterinary Clinical Services)
Dr. J. Baguley (Professional Practice and student internship program
Coordinator)
Ms. S. Ray (Faculty manager)
Mr. A. Chaves (Sub dean international)
Dr. A. Dart (Clinical Research and Training)
Ms. L. Vogelnest (Superintendent Veterinary Teaching Clinic Camden)
Prof. P. Windsor (Professor of Livestock Health and Production)
Associate Prof. T. Mogg (Associate Dean of Learning and Teaching)
Prof. M. Ward (Chair Veterinary Public Health and Food Safety)

【シドニー大学獣医学部の沿革】

- (1) 設置形態：州立（ニューサウスウェールズ州）
- (2) 沿革：1910 年に獣医学部設立
- (3) 概要：

シドニー大学はオーストラリア最大の都市シドニー市(人口 450 万人)の中心部に位置しており、1850 年に開校されたオーストラリアで最大、最古の大学である。16 の学部を有し、学生総数 49,061 名、教職員数 3,067 名の総合大学である。獣医学部は 1910 年の設立で、オーストラリアの獣医学部として最も歴史が古い。

【獣医学教育の特色】

シドニー大学獣医学部はシドニー大学内にあるメインキャンパスと、シドニーから南西 70Km に位置するカムデン市内のカムデンキャンパスを有している。メインキャンパスには獣医学部本館、病理学棟、カンファレンスセンター、教育動物病院（University Veterinary Centre）を有しており、1—3 年生の基礎教育と 4, 5 年生臨床教育、特に小動物臨床の教育が行われている。カムデンキャンパスでは大動物を中心とした教育病院並びに大動物実習、研究施設を有し、主に大動物臨床の教育が行われている。

【学部教育】

獣医学部は 5 年生であり、1 年生から 3 年生までは主にシドニーキャンパスにおいて基礎獣医学・病

態予防学（細胞生物学、生化学、獣医解剖・生理学、臨床病理学、獣医微生物学など）を学ぶ。4年生では一部カムデンキャンパスにおいて、3年生までの単位取得を前提に、産業動物に関連した科目、麻酔外科、画像診断、公衆衛生について教育を受ける。

5年生では臨床ローテーション実習を中心に臨床教育を受ける。15週ごとにシドニーキャンパスとカムデンキャンパスを移動し、小動物臨床および大動物臨床の実習を行う。4週間の民間病院での実習および公衆衛生実習も課されている。

【教育施設】

シドニーキャンパスの獣医学部本館には講義室3室（90人、100人、100人収容）、コンピューター室（150人収容）、学生コモンルーム、食堂、更衣室、解剖学研究室および解剖実習室（125人収容）などが設置されている。また隣接する建物に生理学および実験動物研究室、実習室（2部屋、60人、90人収容）を有する。病理棟には病理解剖学、臨床病理学の研究室があり、セミナールーム（20人収容）、更衣室などを有する。カンファレンス棟には250人収容可能な講義室と小さな実習室がある。教育動物病院は診療施設に加え、剖検室、セミナールーム（2部屋、30人、20人収容）を有する。

カムデンキャンパスのカムデン教育動物病院には診療施設に加え、チュートリアルルーム（40人収容）、剖検室、夜間診療時の学生宿泊施設（6人収容）を有する。その他に馬実験生理学棟、Farm Animal Health and Production Research（教育用避妊去勢手術、実験室、魚類飼育施設を含む）、一般教育棟（250人収容可能な講義室、レストランを含む）、野生動物保護センター（エキゾチックアニマルを含む野生動物の保護・診療）、5年生の臨床実習時のための宿泊施設（120人宿泊可能、レクリエーションルーム、調理場を含む）、図書館、動物生産棟、馬棟（馬の扱い・トレーニングの教育に使用、30頭の馬を飼育）、乳牛・肉牛研究棟（研究用）、ニワトリ研究棟（1,000羽のニワトリを飼育）、乳牛・羊・豚の教育研究棟、乳牛棟（実習用の乳牛400頭を飼育）などの施設を有する。

【獣医学生】

一学年120名で、70%以上が女子学生、20%が外国人学生である。国内の入学学生の50%は高校卒業後直接、50%は他学科あるいは他大学において生物学を履修した学生である。選考については大学生についてはGPA、面接、書類選考により選抜される。2010年には高校卒業者320人、大学生300人、外国人85人の応募があり、それぞれ46、47、37人が合格している。外国人の出身国の内訳はU.S.A.、カナダ、シンガポール、香港、マレーシア、ノルウェー、日本である。卒業生の70%は小動物臨床に、10%は大動物臨床、5%は公務員に就職している。

【調査結果】

2) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

① 獣医科大学の規模（動物病院も含む）：

スタッフ： 教員数：86（男女比）____、外国人教員数：____

（教授25、准教授20、助教26、その他15）

サポーティングスタッフ数：事務職員44、技術職員113

学部学生：昨年度志願者数 705、入学者数 120(男女比____、
外国人留学生 37)、学部総数 604(男女比 128:476、
外国人留学生 152)

大学院学生：昨年度志願者数____、入学者数(男女比____、
外国人留学生____) 院生総数 151(男女比 54:97、
外国人留学生 21)

施設： 建物の総面積(概算)：____m²、実験動物飼育施設(面積、収容動物数の概算)：
面積 収容動物数、非密封 RI 用施設(面積)____、図書施設(収容人数 181 席)、
講義室(数 4 室、合計 580 席) 実習室(数 10 室、合計 465 席)、自習室(数、
収容人数____)、その他(目的と収容人数____)、教育支援コンピューター
室(数 1 室、125 席)、大学キャンパス外の教育支援施設の有無○

教育研究運営資金の調達：予算総額 \$ 30,904,543

国(州など) \$5,435,955、競争的資金(民間からの資金) \$2,028,510、
動物病院の診療報酬 \$4,736,226

② 動物病院(数 2)

動物病院の規模：【シドニー教育動物病院】

スタッフ：教員数 45、レジデント数____、サポーターティングスタッフ数(事
務職員 15、技術職員 20)、入院可能動物数(犬 51、猫 31) 大動物診療室 0、小
動物診療室 8、内科系処置室 3、
外科手術室 3、集中治療室 1、救急獣医療施設の有無○、その他____
診療科の分野：循環器科、歯科、画像、内科、神経科、栄養科、腫瘍科、眼科、
麻酔科、臨床病理科、小動物外科

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置 3、超音波画像診断装置 1、X 線断層撮影装置 1、
X 線照射装置 0、MRI 1、内視鏡検査システム 1、

動物病院の規模：【カムデン教育動物病院】

スタッフ：教員はシドニーキャンパスと兼任が多数。

獣医師 18、レジデント数、サポーターティングスタッフ数(事
務職員 8、技術職員 12) 入院可能動物数(牛 4、馬 13、豚 6、羊 6、犬 6、猫 4)
大動物診療室 ○(馬、牛、羊、豚)、救急獣医療施設の有無×、その他____
診療科の分野：鳥エキゾチック診療科、循環器科、歯科、画像診断科、内科、
神経科、栄養科、腫瘍科、眼科、ペインクリニック(麻酔科)、臨床病理科、
小動物外科(軟部外科、整形外科)、馬診療科(内科、外科)、産業動物診療
科

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置 2、超音波画像診断装置 1、X 線断層撮影装置 0、

X線照射装置 1、MRI 1、内視鏡検査システム 1、
核医学システム 1（馬用）

財務内容（年間）： 寄付金（金額）____、診療売上金（金額）\$6,000,000

診療業務への学生参加：有無（大学病院 ○、大学病院外 ○：例えば一般の動物病院
での実習 ○）

診療車の有無○（目的：大動物臨床等）

2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 5 年）

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 240、可能であれば時間数 時間

特例措置：

*BSc(Vet)…通常の BVSc の 3 年か 4 年次終了後に 1 年間 supervised research を行うこと
で授与される undergraduate degree

修士課程：（専攻、MScVetSc, MVSc, MVetClinStud, MVetStud
MVPH (Public Health) など）

博士課程：（専攻、Equine Research, Farm Animal Health & Production,
Ruminant Nutrition, Animal Genetic & Reproductive Technology
Veterinary Immunology, Wildlife Conservation など）

教育に用いる言語：英語

その他：日本と異なる特別な科目等（疫学等）

学生への支援体制：

授業料：（自国学生\$9,360/年、留学生\$48,300/年）

授業料免除制度×、宿舍の有無 ○

奨学金制度の有無

大学全体で 1,350 種類の奨学金制度（国、州、個人を含む）

留学生のための支援部署の有無 ○

3) ① 昨年の就職状況：

職種：大動物臨床 20%、小動物臨床 70%、公務員（5%）、民間企業____（製薬会社など）、
大学教員____、その他（軍隊 2%）

② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無○；必修ではない

卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無○；利用料金 無

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？

④ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無： ○

⑤ 平成 21 年 10 月に行われた OIE 主催による世界の獣医学部長会議の方針への

対応：対応

⑥ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
- ・ 食の安全に関する教育 ○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保 ○
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
- ・ アニマルウェルフェアに関する取組み ○
- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
- ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など） ○
- ・ その他： Public health Practice、馬の臨床

【シドニー大学獣医学部 写真資料】



シドニーキャンパス

1923年に建設された学部本館
講義室も当時の面影を有するが、
インターネット、プロジェクター等の
設備を有している。



R. Taylor 学部長と



K. Johnson 副学部長と
教育動物病院受付



教育動物病院に隣接した
獣医学部カンファレンスセンター



シドニー教育動物病院 Cat Center
建物奥に連続してDog Center



シドニー教育動物病院内MRI装置
(動物用、0.25 T)



シドニー教育動物病院内CT装置
(16列マルチスライス)



シドニー教育動物病院内
診察室



入院室



処置室



歯科処置室



手術室



導入室



レントゲン装置
他に1台、Cアーム1台



超音波診断装置



解剖学標本展示室

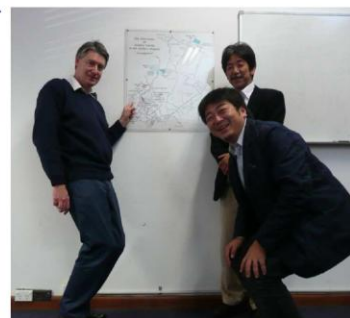
解剖実習室
馬12頭が懸垂されている



カムデンキャンパス



Dr. L. Vogelnest



Asoci.Prof. T. Mogg



教育用 馬飼育施設



教育用 羊飼育施設



カムデン教育動物病院全体像



カムデンキャンパス
一般教育棟



馬実験生理学棟内
馬用シンチグラフィ



トレッドミル



馬用レントゲン室

野生動物保護センター内



カムデンキャンパス内放牧場と学生宿泊施設

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： 国立ソウル大学獣医学部（韓国）
調査訪問時期： 平成 23 年 11 月 17 日～平成 23 年 11 月 18 日（2 日間）
調査訪問者氏名： 伊藤茂男、梅村孝司
訪問時の対応者名： Prof. Dr. P. D. Ryu, Dean
Prof. Dr. H. Lee

【国立ソウル大学獣医学部の沿革】

国立ソウル大学設置令（1946 年）によりソウル農業大学内に獣医学講座として設置され、翌 1947 年に独立分離して獣医学講座となった。1953 年に新たに国立ソウル大学獣医学部として設置が認可され、翌 1954 年に動物病院が設置された。その後 1997 年に新たな動物病院が設置された。1962 年に再度農業大学の一部門として出発し、その後大学制度の変遷を経て 1998 年に 6 年制の国立ソウル獣医学部として改編され、今日に至っている。1946 年から 2006 年までの卒業生数は 2,737 名、同修士課程は 858 名、および同博士課程は 278 名である。

【学部教育と獣医学教育の特色】

国立ソウル大学獣医学部の教員は教授 26 名、准教授 7 名、講師 28 名、助教 5 名、その他 9 名の計 77 名からなり、他に事務職員が 33 名在籍する。韓国の私立 1 獣医科大学を含む 10 獣医科大学内における先導的役割を果たすべき獣医科大学として、特に食品衛生学や動物福祉、新たな動物と人に係わる感染症などの征圧、また近年の動物科学の進歩を支える分子生物学や生物工学などの教育研究に力を注いでいる。

通常のカリキュラム科目実施研究室に加えて、家禽病学、幹細胞・腫瘍生物学、環境衛生学、水棲動物医学の各研究室が設置されている。このほか Animal Cloning and Stem cell Research Center, Adult Stem Cell Research Center, KRF Priority Research Institute for Zoonotic Disease, および Brain Korea 21 for Veterinary Science などの各研究施設を有する。

2007 年の獣医学部入学者数：40 名、在学学生数：221 名、卒業者数：42 名、同年の修士課程入学者数：39 名、修士課程在学者数：78 名、同課程修了者数：18 名、同年の博士課程入学者数：28 名、同課程在学者数：43 名、同課程修了者数：12 名である。

【教育施設】

国立ソウル大学キャンパス内の獣医学部校舎の位置を赤線で囲み示す。獣医学部には動物病院および図書館が付属する。

大学キャンパス外の教育支援施設の有無____

教育研究運営資金の調達：総額\$14,978,734

国（州など）（金額もしくは比率）\$205,944、競争的資金（金額もしくは比率）、
企業からの受託研究（金額もしくは比率）____、
寄付金（金額もしくは比率____）、自己運用資産（金額もしくは比率____）

② 動物病院

動物病院の規模：

スタッフ：教員数 13（大動物____、小動物____）レジデント数 23、インターン数 20、技術職員数 5、大動物診療室（数）____、小動物診療室（数）____、年間総診療件数（大動物 27、小動物 12,703、エキゾチックアニマル__、鳥類 56、魚類など 20）、内科系処置室（数）__、外科手術室（数__、手術台数__）、集中治療室（数）1、救急獣医療施設の有無○、その他、トラウマユニット 2

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置○、超音波画像診断装置○、X線断層撮影装置○、X線照射装置○、MRI○、内視鏡検査システム○、核医学システム○、屋外運動場/プール○、跛行検査場__

診療科の分野の有無：内科○、栄養科__、皮膚科○、脳神経科__、
眼科○、歯科○、外科○、腫瘍科__、麻酔科○、
病理科○、画像診断科○、鳥獣・爬虫類__

財務内容（年間）： 寄付金（金額）____、診療売上金（金額）\$1,842,880

診療業務への学生参加：有無__（大学病院__、大学病院外__：例えば、シエルターや一般の動物病院での実習）

社会へのサービス体制：分院の有無____

診療車の有無____

2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 6 年）

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 223、可能であれば時間数____

特例措置：（ダブルディグリー等、例えば DVM+Master of Veterinary Public Health など）_____

修士課程：（有 4 年）

博士課程：（有 6 年）

教育に用いる言語：韓国語

その他：日本と異なる特別な科目等____

学生への支援体制：

授業料：（自国学生¥700,000/年、留学生 ¥700,000/年）

授業料免除制度 半額あるいは全額免除、宿舍の有無○

奨学金制度の有無（国____、州____、私立____）

留学生のための支援部署の有無○

3) ① 昨年の就職状況：

職種：大動物臨床____、小動物臨床 18%、公務員（農林省管轄____、厚生省管轄____）、民間企業 50%（研究機関）、大学教員____、その他 軍関係 27%

② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無____（無の場合：獣医師会が実施？）

卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無____、（利用料金の有無____）

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？

⑦ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無： 無

⑧ 平成 21 年 10 月に行われた OIE 主催による世界の獣医学部長会議の方針への対応 無

⑨ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
- ・ 食の安全に関する教育 ○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
- ・ アニマルウェルフェアに関する取組み ○
- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
- ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など）
- ・ その他_____

【国立ソウル大学獣医学部 写真資料】



国立ソウル大学獣医学部校舎



講義終了時の獣医学部 2 年生



動物病院の受付部



動物病院の研修生達



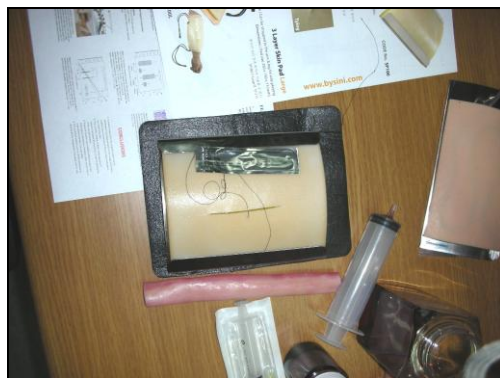
動物病院の診療施設



小動物用 CT Scan 装置



解剖学実習（2年生）



人工皮膚を用いた外科実習



Adult Stem Cell Research Center にて



国立ソウル大学事務局